

<第79回調査>

2015年12月28日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2015年12月15日(火)13:00～2015年12月22日(火)13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。
今回の有効回答数は908件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

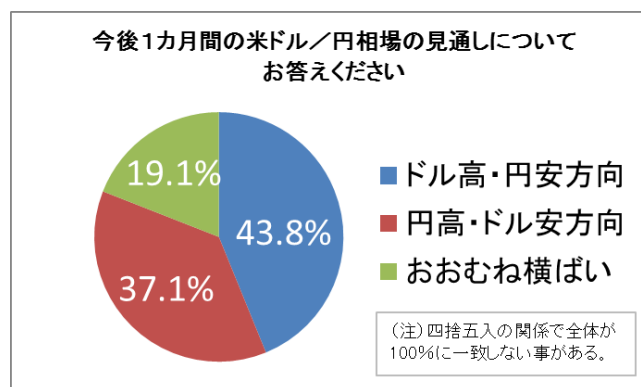
Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第79回調査結果略報：米ドル/円の見通しが分散】

問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

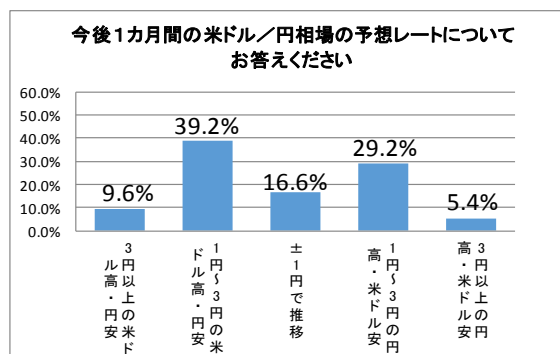
「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が43.8%であったのに対し「円高・ドル安方向」と答えた割合は37.1%であった。この結果「米ドル/円予想DI」は+6.7%ポイントとなり、前月(+53.7%ポイント)から大幅にプラス幅を縮小した。調査期間中の米ドル/円相場は米国の利上げ後にドル買いが強まったものの、日銀の金融緩和について「補完措置」が発表されたあとに急落してしまった。それにより、米国の金利先高観によるドル高期待が残っている反面、当面は追加緩和を打ち出さない可能性がより意識されてしまった日銀への失望感による円高を見るFX投資家が増えたと考えられる。

※過去の米ドル円予想DIの推移はP6-7に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が39.2%と最も多く、「1円～3円の円高・米ドル安」と答えた割合が29.2%、「±1円で推移」が16.6%と続いた。「3円以上の米ドル高・円安」は9.6%、「3円以上の円高・米ドル安」は5.4%であった。ヒストグラムの形状は「1円～3円の米ドル高・円安」と「1円～3円の円高・米ドル安」を2つのピークとするM字型となっており、回答が割れた問1と整合的である。調査期間中の米ドル/円相場の平均(終値ベース)が121.60円台である事、「1円～3円の米ドル高・円安」と「1円～3円の円高・米ドル安」と「±1円で推移」の合算割合が85%に達した事から考えて、FX投資家らのおおよその想定レンジは118.60円から124.60円程度と推測できる。

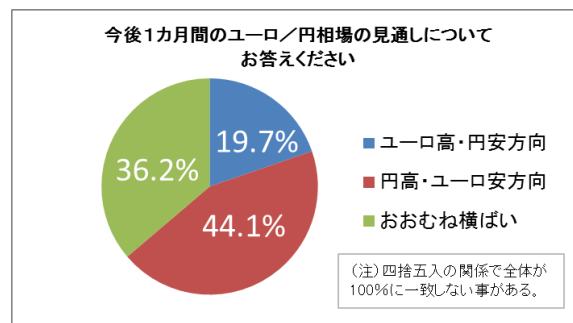


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

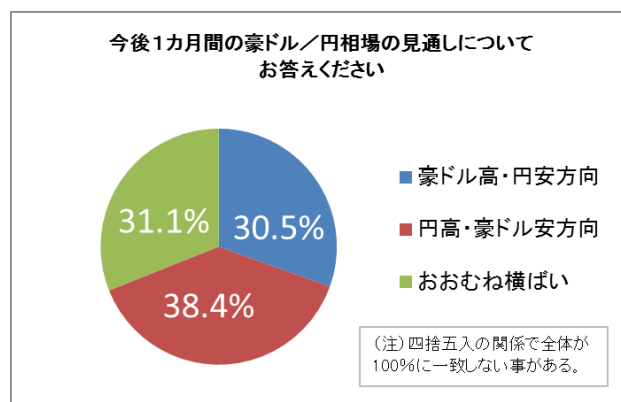
問3: 今後1か月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が19.7%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が44.1%であった。この結果、**ユーロ/円予想DIは-24.4%ポイント**と、前回調査(-50.3%ポイント)からはマイナス幅が縮小した。調査期間中のユーロ/円は、日銀の金融政策決定会合後の円高を背景に一時131.00円付近まで失速した。しかし、月初に欧州中銀(ECB)の追加緩和が市場の期待に及ばなかった事から大幅にユーロ高が進んだ事もあり、「円高・ユーロ安方向」予想がやや減ったと考えられる。ただ、依然として欧州の緩和的な政策見通しはユーロ安期待に繋がっており、これが「円高・ユーロ安方向」の根強い回答割合の高さに結びついているものと見る。 ※過去のユーロ円予想DIの推移はP6-7に掲載。



問4: 今後1か月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が30.5%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は38.4%であった。この結果「**豪ドル/円予想DIは-7.9%ポイント**」となり、3か月ぶりにマイナスDIとなった。調査期間中の豪ドル/円相場は日銀会合後の円高で一時86.214円まで下落するも切り返すなど、大きな方向感は出なかった。しかし、日々の動きを見ると原油安が地味に重石になる様子が散見されており、これがマイナスDI転落の一因になった可能性はある。 ※過去の豪ドル円予想DIの推移はP6-7に掲載。

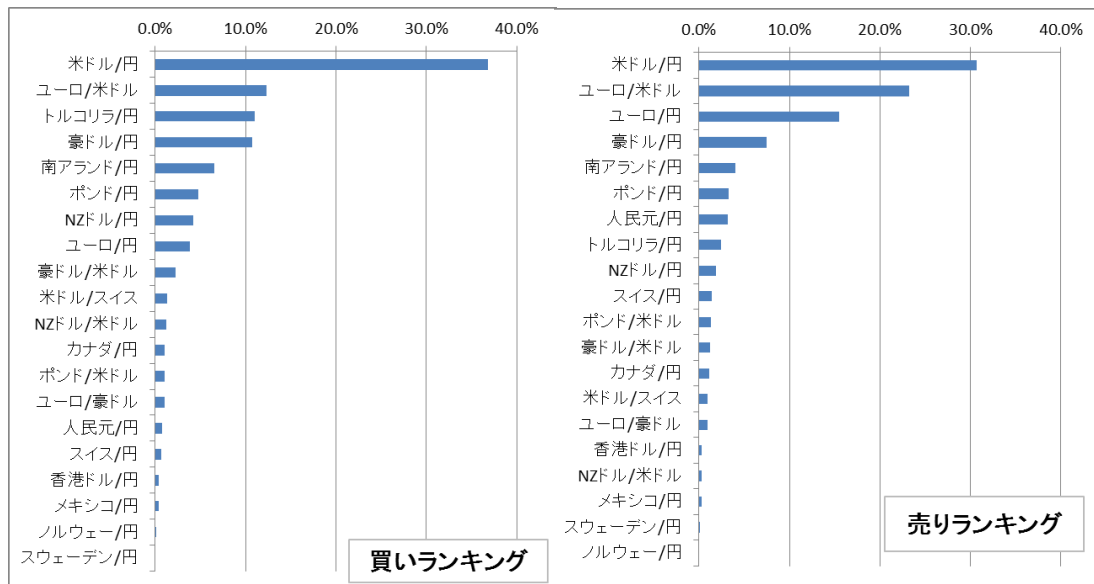


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

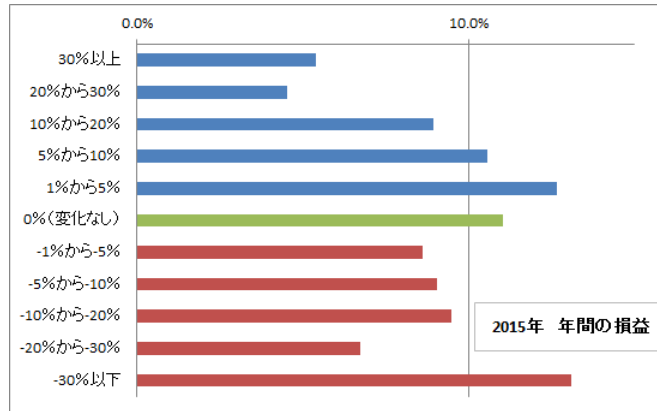
「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目の通貨ペアは、米ドル/円が36.8%の回答割合を集めて第1位をキープした。以下、2位ユーロ/米ドル(12.3%)、3位トルコリラ/円(11.0%)、4位豪ドル/円(10.7%)、5位南アランド/円(6.5%)と続いた。一方、「売り」で注目の通貨ペアは、1位米ドル/円(30.7%)、2位ユーロ/米ドル(23.2%)、3位ユーロ/円(15.5%)、4位豪ドル/円(7.5%)、5位南アランド/円(4.1%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円が回答割合を前月の54.0%から大幅に低下したが、39回連続で1位となった。2位のユーロ/ドルは前月6位からの浮上となる。ECBの追加緩和への失望感を背景とするユーロ/ドルの反動高を受けて、買いで注目するFX投資家が増えたものと考えられる。トルコリラ/円はユーロ/ドルに2位を譲った格好だが、回答割合はさほど変わっておらず、依然として注目度が高い様子を窺わせた。一方、売りで注目の通貨ペアについては、ドル/円が前月の3位から浮上する結果となった。米国の利上げを一旦通過し伸び悩む様子を見て、当面はドル安・円高方向と見通したFX投資家が増えた(参照: 問1)事などが背景にあるとみられる。また、ユーロ/ドルやユーロ/円に対する「売り」での注目度は依然として高く、長い目で見た場合のユーロの弱さを意識するFX投資家は根強いようだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

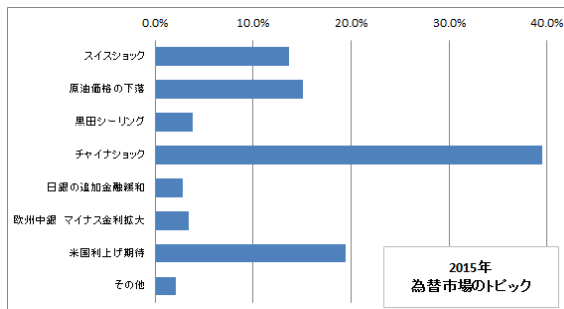
**問6: 2015年1月から12月までの損益状況について、投資資金の何%となっていますか。
(例: 100万円の投資資金が110万円になった場合10%)**

今回の特別質問項目として、「2015年1月から12月までの損益状況について、投資資金の何%となっていますか。(例: 100万円の投資資金が110万円になった場合10%)」と尋ねたところ、「-30%以下」が13.1%と最も多く、次いで「1%から5%(12.7%)」、「0%(変化なし、11.0%)」、「5%から10%(10.6%)」と、続いた。1%以上プラスになったFX投資家は42.1%、1%以上マイナスとなったFX投資家は46.9%と、結果は拮抗している。自由回答欄を見ると、プラスとなった層からは、損切を早めにし、チャイナショックなどの急激なリスク台頭時は下値でうまく買いを入れたという声が目立った。一方で、マイナスとなった層、特に30%以上の損失を出した層に関しては、チャイナショックによる損の大きさや、損切をうまく出来なかった事を挙げる声が目立った。なお、昨年同様の設問をした際には55.1%のFX投資家がアベノミクス相場などを理由に1%以上の利益を上げており、今年は全体として昨年ほどパフォーマンスが良くなかったと言えそうだ。



問7: 2015年を代表する、為替市場へ影響を及ぼしたトピックとして、最もふさわしいと思われるのはどれでしょうか(ひとつだけ)

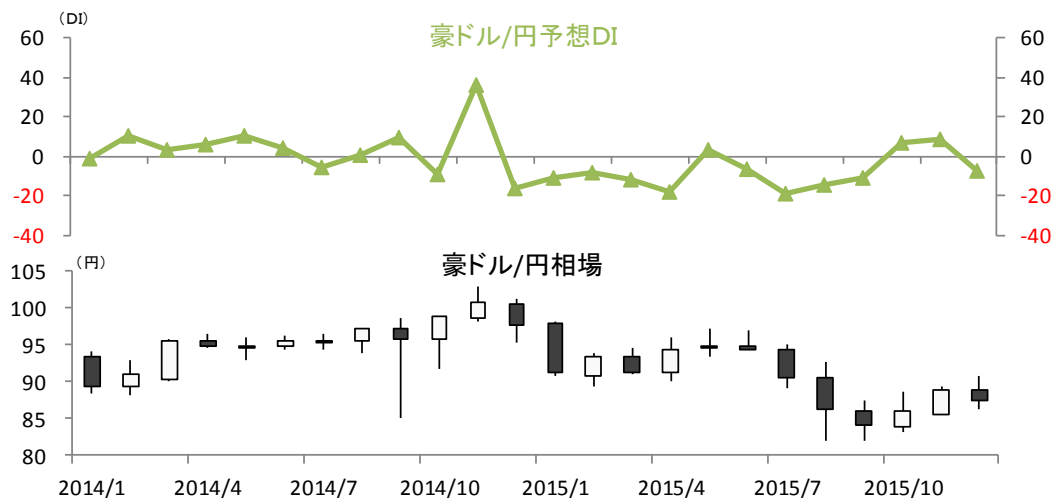
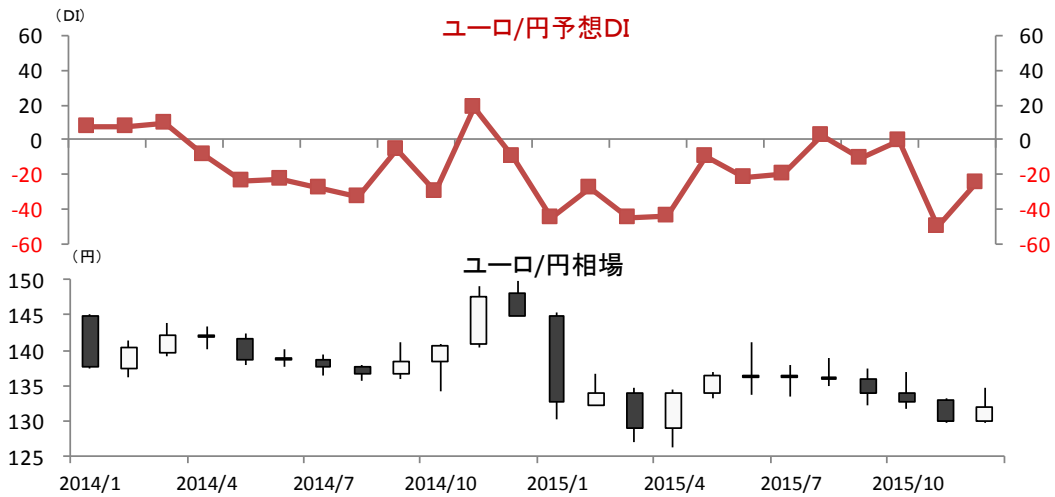
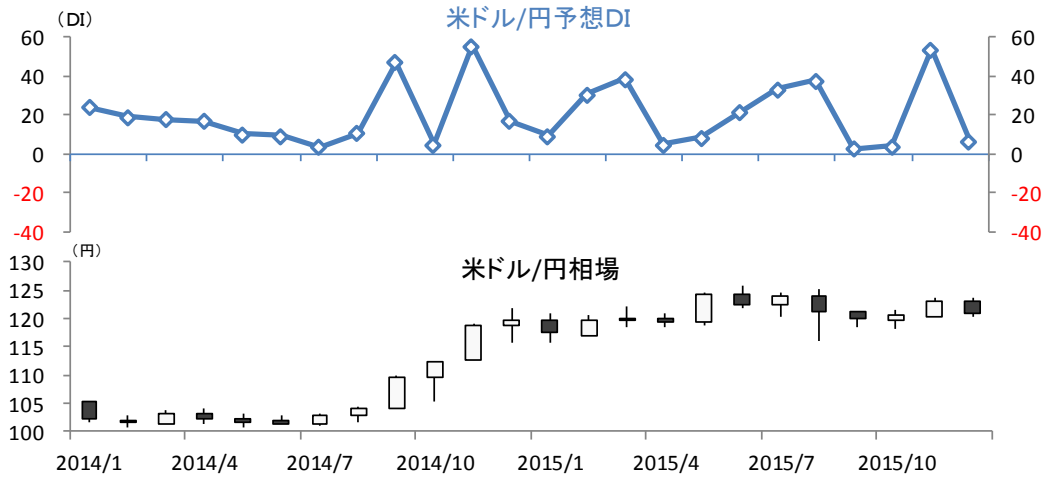
「2015年を代表する、為替市場へ影響を及ぼしたトピックとして、最もふさわしいと思われるのはどれでしょうか(ひとつだけ)」と重ねて尋ねたところ、「チャイナショック」が39.5%と最も多く、「米国利上げ期待(19.5%)」、「原油価格の下落(15.1%)」、「スイスショック(13.7%)」が続いた。市場で知ることができる中国の情報は限られている。そんな「中身が見えない不安感」が底流する中で起こった同国発の大きなリスクオフの波によるショックは、問6でも多く取り上げられたようにFX投資家に大きな影響を与え、長くテーマとされ続けていた米国の利上げも霞ませてしまったようだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第79回目となりました。調査開始から6年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2014年	1月	47.2	23.1	24.1	37.2	29.7	7.5	28.1	29.4	-1.3
	2月	41.7	22.5	19.2	35.3	28.2	7.1	36.5	26.3	10.2
	3月	41.9	24.0	17.9	38.7	29.5	9.2	34.8	31.5	3.3
	4月	41.4	24.6	16.8	25.7	34.5	-8.8	35.4	29.5	5.9
	5月	33.9	23.5	10.4	19.7	44.0	-24.3	34.2	24.0	10.2
	6月	31.1	21.7	9.4	20.1	43.1	-23.0	30.4	26.0	4.4
	7月	27.9	24.4	3.5	17.8	45.8	-28.0	26.7	32.3	-5.6
	8月	32.6	21.8	10.8	14.7	47.9	-33.2	27.8	27.7	0.1
	9月	64.8	17.6	47.2	28.0	33.2	-5.2	36.0	26.5	9.5
	10月	39.4	34.4	5.0	18.3	47.8	-29.5	27.1	36.1	-9.0
	11月	70.0	14.2	55.8	43.0	24.1	18.9	54.0	18.4	35.6
	12月	48.9	32.0	16.9	28.8	38.2	-9.4	26.9	43.4	-16.5
2015年	1月	39.3	29.7	9.6	15.1	60.6	-45.5	26.2	37.5	-11.3
	2月	46.8	16.1	30.7	19.7	47.5	-27.8	26.4	34.8	-8.4
	3月	52.3	13.6	38.7	15.2	60.5	-45.3	21.8	33.9	-12.1
	4月	31.4	26.3	5.1	15.1	59.0	-43.9	23.4	41.9	-18.5
	5月	29.1	20.5	8.6	31.0	40.4	-9.4	32.2	29.1	3.1
	6月	43.5	21.9	21.6	25.4	47.2	-21.8	24.3	31.3	-7.0
	7月	49.1	15.5	33.6	23.6	43.7	-20.1	22.8	41.7	-18.9
	8月	51.1	13.1	38.0	30.9	28.8	2.1	24.1	38.5	-14.4
	9月	37.1	34.5	2.6	24.9	35.8	-10.9	29.9	40.7	-10.8
	10月	30.3	26.2	4.1	30.3	31.1	-0.8	39.6	33.0	6.6
	11月	67.3	13.6	53.7	11.1	61.4	-50.3	34.4	25.6	8.8
	12月	43.8	37.1	6.7	19.7	44.1	-24.4	30.5	38.4	-7.9

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com